

資料15

哺乳類の呼吸器系に寄生するハイダニ科
(Halarachnidae) の形態ならびに生態に関する研究 (北海道大・水産・北洋研生態)

小西 健志

ハイダニ科ダニ類は、哺乳類の呼吸器系に広く寄生する。これらのダニは、中間宿主を持たず、生活環が全て宿主内で完結するために、宿主特異性が強い。そこで、本研究では鰭脚類(トド、ゼニガタアザラシおよびゴマフアザラシ)およびサル類よりハイダニ科ダニ類を採集し、形態学および分子生物学的手法を用いて、上記ダニ類と宿主との分布特性の比較を行うことを目的とした。

現在、鰭脚類から採集したハイダニ科 spp の形態学的検討を終えた。また、ニホンザルから採集したハイダニ科 sp. についても、形態学的検討を継続中である。

資料16

加齢にともなうサル類副腎皮質の変化

田中 慎(長寿研) 鈴木 樹理(霊長研)

松澤 昭雄(医科研)

京都大学霊長類研究所の共同利用研究で、1992年度以降の Bouin 液固定副腎標本の供給を受けている。腺は総て右側で、70%エタノールに浸漬されていた。左側腺は平たい楕円形であったが、右側腺は四角錐に近い形状であった。大半がカニクイザル (*Macaca fascicularis*) であった。老齢とされる30歳以上の個体はなかった。マウス(C57BL/6とC57BL/6J)とラット(F344とBN)副腎皮質の加齢変化ならびにヒトのそれと比較し、以下の所見を得た。

マウスでは結合組織の集積が1から1.5年齢で顕著となり、網状層が消失した。2年を超えると層構成が崩壊した。BNでは10か月以降、性にかかわらず束状層に細胞質が明るかったり暗くなったりした異形性の高い細胞が集団で出現し、層構成を乱すに至った。この乱れは加齢とともに増悪したがマウスのように結合組織の集積はなく、層を分断するには至らなかった。一方F344とサル類では、結合組織の集積を若干認めるものの層構成は整然としていた。ヒトでは50歳前後から結合組織の集積を認めたが、91歳に至っても網状層が存在した。

ラットでは系統間で加齢変化に違いが見られた。サル類やヒトに類似したのもF344からマウスとも異なるBNまであり、層構成の崩壊という点ではマウスの変化が最も極端であった。

マウスの変化は全層に亘っているのに対してBNでは束状層に限局されていた。加齢変化の追究により従来とは異なる層の概念が提示できるかもしれない。

実験動物での加齢変化は種と系統により相当異なることが明らかとなり、系統差の特定が必要と考えられる。サル類やヒトにおいても加齢個体の例数充実と健康に加齢した個体の獲得が急務であろう。